

岩手郡医報

昭和63年12月 No.24

編集/発行

岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生



写真は雫石町のあちこちに見られる看板です。全町民がこの世界アルペンスキー大会を機に今流行の国際化を含めて全てがより良く、大きく変わる事を願っております。

(T. T)

目次

雫石の白銀に躍れ世界の仲間//	1	私に人間としての大きな道を//	上原 充郎 8
岩手郡医師会理事会記録	2~3	マージャンと上野先生	長谷川貫一 9
上野精三先生逝去される	4~9	行事予定	9
送葬の辞	高橋牧之介 4	PACKET通信へのお誘いその1	及川 忠人 10~12
上野先生の思い出	高橋 孝 5	ジェイソン君とわが女房	上原 充郎 12~14
弔 辞	宮杜 亨 6	雨の中健闘す 県医ゴルフ大会	14
故上野精三先生を偲んで	秋浜 晃 7	編集後記	14
故上野精三先生の思い出	岡本 彰 8		

岩手郡医師会理事會記録

▽ 日時：昭和63年9月9日（金）午後6：30～

場所：岩手県医師会館第2会議室

出席者：高橋（牧）、佐藤（郁）、上田、
西島、坂井、嶋、瓜田、八角、佐
渡、及川、高橋（孝）各理事

議事：

1) 第1回保険問題協議会について（高橋会長）

7月29日県医師会館において行われ、質疑事項、再請求件数が倍増し、3000件にものぼっている。特に薬剤について一過剰、重複投与が目立っている。

2) 第1回労災部会幹事会について（高橋会長）

8月25日県医師会館において開催され、部会長選任が行われ、部会長に時田一雄先生副部会長に小笠原寿先生、高橋牧之介先生、米山幸作先生が選ばれた。

昭和63年度都市医師会地域医療担当理事連絡協議会について

8月25日県医師会館において行われ、県医常任理事桜井末男先生の司会で、災害医療救急に関する協定の問題が話し合われた。その他医療情報システムのネットワーク化、リハビリテーション調査委員会の設置など話題となった。

4) 第46回勤務医部会幹事会について（佐藤郁郎理事）

9月3日宮古シティホテルにおいて開催され、約40名位の参加であった。今年度新たに選出された部会長の谷口繁先生（岩手医大）の司会で、地元宮古医師会勤務医部会会員も多数参加され、勤務医の組織化について活発な意見の交換があった。

5) 第2回健康教育委員会について（八角正司理事）

9月10日に開催され、昭和63年度県民健康講座のテーマは「応急処置」とする。今年度の開催地は岩手郡としては岩手町となり、明年1月より4～5回の講座を予定している。

6) 岩手県学校保健、学校医大会について（高橋孝理事）

第6回岩手県学校保健、学校医大会は昭和64年1月22日（日）県医師会館において開催予定であり、10月末まで演題の募集をしている。

7) 地方交付税における学校報酬の算定について

8) 乳児等医療費受給者証の更新及び請求事務の取扱について

9) 交通災害共済見舞金の請求に係わる診断書料について
500円～3000円が適当と思われる。

10) 救急の日及び救急医療週間の実施について

11) その他

生涯教育申告書の提出は月初めに会長あてに提出すること（ハガキにて）。申告状況があまりよくない。忘れずに提出して下さい。

▽ 日時：昭和63年11月12日（土）午後6：00～

場所：盛岡市ホテル東日本

出席者：高橋（牧）、佐藤（郁）、上田、西島、坂井、高橋（孝）、根本、及川、佐渡、嶋、八角、瓜田各理事

冒頭、高橋会長より昭和63年10月23日に行われた医政講演会演題

①「日本医師会の当面する問題」日本医師会常任理事村瀬敏郎氏

県民健康講座日程

会場 岩手町

回	開催年月日	場 所	テ ー マ	時 間	所 属
1	64、1、18(木)	五日市生活改善センター	開講式 挨拶 応急処置	13:00～13:25 13:30～15:00	司会：岩手保健所次長 高橋 秀洋 岩手町長：田中 幸平 郡医師会会長 高橋 牧之介 岩手保健所長 中館 先彦郎 座長：熊谷 小次郎 県立病院内科部長 内科：佐々木 久夫 内科：和田 利彦 外科：佐渡 豊 産婦人科：中村 義孝 盛岡消防署岩手分署長 藤村 栄一
2	64、1、24(火)	五日市生活改善センター	岩手町の集団検診とその問題点	13:00～15:00	座長：和田 栄吉 内科：高橋 司 外科：小川 将 産婦人科：坂井博毅 岩手町保健婦 田村 清子
3	64、2、1(木)	五日市生活改善センター	老人の生活とと歯の衛生	13:00～15:00	座長：佐々木 久夫 歯科：宮田 欣一 岩手保健所：木村婦長 県立沼宮内病院：婦長 岩手町保健課 栄養士、花沢 敏子
4	64、2、8(木)	五日市生活改善センター	〔座談会〕 より良い医療を求めて 閉講式 終了証書授与	13:00～14:25 14:30～15:00	座長：工藤 剛嗣 町内医師全員 保健推進委員 乙茂内 信子 岩崎 かおる 堤 堤 夕チ子 堀 幸

②「これからの医政」参議院議員大蔵政務次官大浜方栄氏の講演要旨の説明があった。これはいづれ「いわて医報」へ掲載予定である。

議題：

- 1) 県民健康講座について (西島、八角理事)

昭和64年1月18日より2月8日まで4回にわたり岩手町で開催。共通テーマは「救命救急の応急処置について」。地元岩手町の先生方の担当となる。プログラムは別掲の通り。

昭和64年度の開催地は西根町の予定である。

- 2) 岩手郡学校保健会について
- 3) 岩手県学校保健、学校医大会について

(高橋孝理事)

郡学校保健会は、10月15日郡内小、中校

の養教、各町村の保健課、福祉課職員など参加して共済会館にて行われた。特別講演には県医常任理事(学校保健担当)の小川英治先生の話しがあり、大変盛大であった。

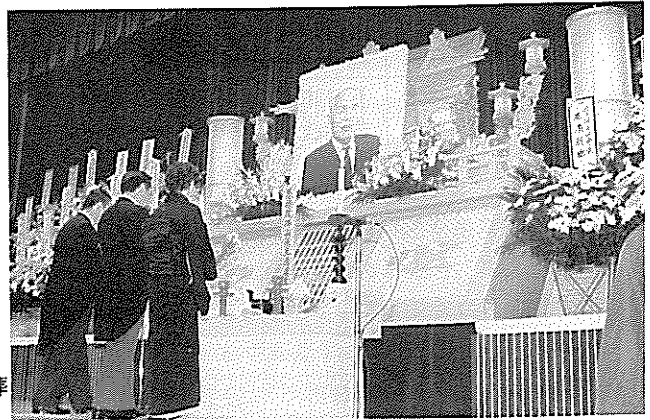
明年1月22日(日)に行われる第6回岩手県学校保健、学校医大会には、11月7日現在、当岩手郡医師会の八角正司先生の「玉山村を中心とした心臓検診20年間の成績」を初めとする12題の演題申し込みがあった。

- 4) 災害医療救急に関する協定について
- 5) 三都市(盛岡、紫波、岩手)救急医療懇談会について
- 6) 昭和63年度日本医師会生涯教育講座開催について

昭和63年11月27日(日)午前9時より県医師会館4階ホールにて開催。

元郡医師会長 上野精三先生

逝去される



故上野精三儀本葬

故上野精三先生は、明治42年1月25日生を受けて以来、昭和7年3月岩手医学専門学校卒業（第1回生）後間もなく、昭和8年2月～昭和20年8月まで陸軍軍医として任務につき、復員後昭和24年雫石町にて開業。以来今日まで地域住民の医療に献身された。また郡医師会、県医師会役員として会員の指導に当たられ、ことに昭和49年6月～昭和61年3月までの長年月にわたって岩手郡医師会の会長として、医師会発展に寄与された功績は大なるものがあるかと思われま。

このたび昭和63年10月20日自宅にて胸内苦悶を訴えられ、救急車にて岩手医大高次救急センターに収容され、10月26日午後8時15分不帰の人となられた。

10月28日午後6時より雫石町の自宅にて通夜。10月29日午後2時より雫石町営火葬場にて火葬。11月6日午前11時より雫石町営体育館にて葬儀が行われた。

以下先生の思い出を数人の方々につづっていただいた。

送 葬 の 辞

葬儀委員長 高橋 牧之介
岩手郡医師会長

本日ここに故上野精三先生の御葬儀をとり行うに当り、私は先生が築き育てて下さった岩手郡医師会の会長としてまた本葬儀の委員長として謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生は去る十月二十日まではご健在にて診療に精励しておられ、当日は診療後中学校の予防注射を行い、それを済ましてご帰宅になったそうでしたが、その直後急に倒れられ岩手医大高次救急センターへ入院なされました。ご入院後は医師団の懸命の努力や、ご家族の切なる願いもむなしく二十六日不帰の客となって黄泉に旅立たれてしまわれました。

私は長年にわたって先生からご厚誼ご指導を

いただき、先生を師と仰ぎ心の支えとして来た者であります。

今ここで先生のお写真を拝し、幽明境を異にした先生の御霊に対し万感交々悲しさが胸に溢れる思いがいたします。

先生は岩手医大の前身岩手医学専門学校の第一回の卒業でありました。

時恰も満州事変直後のことでわが国は戦時体制に入った時期でありました。先生は直ちに軍籍に編入され軍医として内地や華北等の戦地において傷病兵士の救護に尽くされること十数年であり、やがて終戦となって復員し、暫時松尾鉦山病院の院長をされましたが、昭和二十四年

郷里において開業し今日に至ったのであります。

医院開業以来地域の医療に精励する傍ら岩手郡医師会副会長理事を十八年間、県医師会理事を十八年間、郡医師会会長を十二年間勤められ、一昨年郡医師会会長を辞任後は推されて顧問となり、このようにして長期にわたり地域は勿論県下全域の医療のため尽力されておりました。

その上に学校医、町議会議員、町教育委員長、町体育協会会長、町交通安全協会会長、郡及び県のPTA連合会の会長副会長等々幾多の要職を委嘱され地域の発展、住民の福利厚生等のため奉仕されました。このような功績により勲五等双光旭日章に叙され、また厚生大臣、文部大臣、法務大臣、警察庁長官などをはじめ多くの官公署団体等より表彰状、感謝状を贈られ、引き続き奉仕に尽瘁しておられました。私達は先生が今後ともこのような活動を通して後輩の指導はもとより地域医療向上の指針をしめされることを期待しておりました。それなのに生者必滅会者定離とは申しながらも先生と幽明境を異にすることになりましたのは悲しみの極みであります。

上野先生の思い出

栗石町 高橋 孝

『アノナヤ俺の長男は北大の医学部を卒業して、同級生と結婚して札幌で産婦人科を開業、次男は東京医科歯科大を卒業して、岩手医大の歯学部の教授となり、嫁も歯大の同級生で盛岡で歯科を開業しているし、長女は東京に嫁ぎ、夫は歯科を開業しているし、養女は岩手医大を卒業した精神科医と結婚し、花巻で精神病院を経営している。孫達は各々東北大の医学部、岩手医大、金沢医大と皆が医者で大学サ行っているオス』『高橋君、内のおばあさんをカデデ遊んでくれるように奥さんさ頼んでおいでケラシェ』お逢いするといつも良く聞く言葉。

ご遺族の方々のお悲しみもいかばかりかとご推察申し上げております。

ご子息様方やお孫様方には医療に従事しておられる方々が揃っておられるようですので、その方々によって先生のお心が継がれるものと思いいこれによって自らを慰めております。

そして私達もまた先生を範とし、ご遺徳を肝に銘じて地域医療のため努力いたしたくこれが先生へのご恩に報いる唯一の道であると思ひます。

先生何卒私達を見守りながら安らかにお休み下さい。

先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げてお別れの言葉といたします。

昭和六十三年十一月六日



左より葬儀委員長高橋牧之介郡医師会長、喪主上野和之岩手医大歯学部教授、上野英子さん上野精三先生夫人

口癖でした。自分が選んだ大好きな医師の道の子供達が、孫達が選んでくれたことを大変喜んでおられたし、又自慢もしておられました。又どんな会合があっても一人でられる奥様を心配されてか、夜の十時前にはお家に帰られて、玄関でお迎えになる奥様に『ドーモ、ドーモ』と挨拶される先生でした。淋しそうな様子もみせず『高橋君老人ホームのような生活も楽しいよ』と冗談を言いながら奥様をいたわり、大切に大切になさっておられ、又奥様も『先生、先

生』とお呼びになり本当に仲の良い二人でした。晩年は皆様も御存知のように戦事で傷めた膝の痛みが強く、特に長く座っていること、階段の昇降が辛いようでした。それでも人前で他人に面倒をみられるのがきらいで、私が階段を降りるときソット肩を貸してやっても人前ではその肩に手をやってもらえませんでした。ましてや手を延べたりするとその手を払われました。しかし夜とか人がおらないときは手を繋いでもヨイショヨイショ階段を昇ったり降りたりしてくれました。今度具合が悪くなったときも、夜九時頃だったと思います。私が入浴中でしたが、奥様から電話で『先生が少し呼吸が苦しいようだ、高橋先生を頼もうと言っても、頼まなくても良い。すぐ治るからと言うし、どうしたらよいでしょうか』と言う電話でした。すぐ

に風呂から上がり、薬を揃えて往診の用意をしているときに『救急センターに行くそうです』と言う電話でしたが、私は間にあわず、救急車のあとをタクシーで追ったような次第です。人に迷惑をかけたくない。自分の惨めな姿を他人にみせたくない侍でした。救急車の中で『お世話になった方々に宜しく言うように』と言う言葉を奥様に伝えて意識がなくなり、心停止の状態になったと聞きます。蛇のきらいな先生だから、来る蛇年をきらってか、花に埋もれて行ってしまった。耳でピーピー笛を吹きながら、自分なりに聞いて自分なりに考えて、自分なりに話しながら痛い膝をさすりさすり杖をついて、跛行をひきながら川を無事に渡ったのだろうか。馬鹿な親父だ。二度と戻れないものを、そんなに急がなくてもよいものを。

弔 辞

栗石町医療団代表

宮 杜 亭

上野先生、こんなに早く、先生に、お別れの言葉を申し上げることになるとは夢にだに思いませんでした。誠に残念でなりません。

人の命のはかなさをまざまざとみせつけられ、その驚きと悲しみでいっぱいでございます。

先生は十三年前、デンクさんの新築祝いの席で心筋梗塞の発作にみまわれ、誰にも知らせず静かに裏口より出られハイヤーで、お婦りになり、医大の第二内科に入院されたことがありましたが、これが初めての発作ではなかったかと思えます。

然し病状が快方に向い退院なされてからは、持ち前の叡知と行動力で岩手郡内各町村を飛び廻られ

○行政との対話

○休祭日当番医の設定

○予防注射の各町村との協定

○学校保健の推進

○健康教育の普及

○生涯教育の充実

○救急災害の対応

などの対策を次々と進められました。

ご自分の出版の本「あゝあの頃」の中で、お花見は弘前での一回しかないと申されて居りますが、十四年間兵役に服され、昭和二十一年に復員された後は、地域医療のため休むことなく働き続けて参られました。

町民からは、『医者さん医者さん』と慕われ家庭医として信頼されて参りました。

上野先生 あなたはご自身の体調はお考えになられず町民の幸せを第一義として献身的に尽くしてこられました。

また、国保運営委員の研修視察のうちに、旧軍隊時代の部下の人達に逢った時など、昔の労をねぎらったり近況などをつぶさに聞かれておられました。その後姿には、部下思いの温情の一端がうかがえました。

先生は、九月の医療団の勉強会で、今日、陛下のご病気のご快癒を護国神社に祈願して来たが、帰りに胸が苦しくなり、石垣に腰をおろして薬をなめたら落ち着いたと申して居りました。

十月二十九日の国保運営委員会の研修視察は元野辺地陸軍病院で上野先生の部下であった中野喜一先生の病院を見学することになって居り、先生も大変楽しみにして、おられました。中野病院でも院長先生はじめ職員一同喜んで歓迎の準備をしていたとのことでしたが、誠に残念でなりません。

私共は、一回目の発作以来先生と同行する時

は、応急の措置が出来るよう、常に準備をして参っておりましたが、今回のご自宅での発作には間に合わず誠に残念に思っております。

雫石町医師会歯科医師会員としては、これからもいろいろと先生からご指導ご助言をいただきたいと願っていた矢先に、先生に突如として去られ、大きな星を失ったごとく途方に控えております。

然し、雫石町医療団は、今後も一致団結して先生が生涯をかけて築かれ、そして私たちに残してくれた尊い業績を汚すことなく、継承し続けることを、ご霊前に誓うものであります。ここに心より先生のご逝去をいたみ、先生の輝かしいご功績に対し限りない敬意と感謝の念を捧げ弔辞といたします。

先生安らかにお休みください。

昭和六十三年十一月六日

故上野精三先生を偲んで

玉山村 秋 浜 晃

秋も深まった十月末日のある日 上野先生の突然の訃報に接し、過日娘浩子の結婚披露宴に御出席頂き、その時はとてもお元気にされておられたのにと、大変驚き信じ難く、翌朝早々にお宅に参上致し先生とお別れして参りました。然し未だに先生の死は信じられ難く今でも独得の仕草で「やあ、やあ」と言い乍ら玄関から入ってこられるお姿が目には浮かびます。又年一回の県医師会主催の八月末の親睦野球大会には開催地の遠近にもかかわらず必ずと言ってもいい位御参加なさいました。大会前夜の懇親会場のホテルにお着きになっても私共は浴衣に着替え、寛ろいで居ますのに先生はいつも背広姿のまま私共におつき合下さり、そしてふっと何処かへ外出なされ、私共の宴会が最高になった頃に

ここにこして帰られます。どちらへと伺うと、「この地区に二、三人の亡き戦友が居るので佛前に盃をあげて来た」と何か大役を無事果たされ満足した御様子でした。そう言えばいつもこの大会の前夜祭の途中で外出なさりその地区の亡き戦友の佛前を廻られ、冥福を祈って来られていたようです。上野先生の暖かいお人柄に接し今更乍ら先生の偉大さを痛感致しております。私共も同じ道を歩む者として、清簾潔白そして暖かい人間味あふれる先生の御遺志を継いで岩手の医療の道を歩んで参りたいと思っております。お別れしてから早や一ヶ月、時の流れは早いものです。先生の御冥福を心からお祈り致し偲ぶことばと致します。

昭和六十三年十一月三十日

故上野精三先生の思い出

玉山村 岡 本 彰

慎んで、故上野精三先生の御霊前に哀悼の意を捧げます。昭和五十四年七月、私が現在地（玉山村大字下田）に開業の頃、先生が岩手郡医師会会長として第一線で御活躍中であり、開業時の諸問題の処理や医師会入会の手続き等、公私に渡り御指導、御鞭撻をいただいたことを思い出します。私が雫石の先生の御自宅に参上いたしましたのは、前年の昭和五十三年晩秋でした。開業の予定の説明と今後の御指導などをお願いを申し上げましたところ、内容につきまして種々御下問があり、御理解下さり、激励して下さいました。しばらく世間話をしておりますと、突然私の中学時代のお話が出ました。私は中学時代、先生の御嬢様、百合子さんと同級でありました。雫石から、ピアノの上手な人が通っているというので、当時評判の美人さんでした。その頃のことを先生が覚えていらしたの

に驚かされました。（もしかしたら奥様のアドバイスであったのかもしれませんが）、その後先生には様々な御指導を頂き、医師会の諸先輩の先生方、雫石町内外の沢山の方々を御紹介いただき、とくに雫石町の希望ヶ丘学園の関係者の皆様方との御付き合いにより、私の住む医療の世界とすぐ隣にある、福祉の領域の世界での皆様の御意見を拝聴する機会が得られたことは私にとって大きなことでした。本年十月二十八日の晩、先生の御自宅での御通夜に伺いますと、御仏壇の前に百合子さんらしいお顔を拝見しました。中学卒業後二十七年目にお会いしたのが、先生の御霊前とは。悲しい再会になりました。今は只、先生の御冥福を心からお祈り申し上げます。先生、長い間御苦勞様でした。

（合掌）

私に人間としての大きな道を!!

雫石町 上 原 充 郎

我々岩手郡医師会の偉大な先輩であり、この上ない良き指導者であられた故上野精三先生の御冥福を心よりお祈り致します。先生とお逢いしてから十五年になり、この間の思い出は筆舌にはとても表せないほどです。楽しかったこと、悲しかったこと、苦しかったこと……。特に第二回岩手県医師会親睦スキー大会を主幹した時には、先生のモットーとする“会員と会員の和”をつくづく感じさせられました。先生曰く、会員とその御家族ができるだけ多く参加されるように、大会当日全参加者が楽しく一日を過ごされるように、全参加者が心に残る大会に

なるように。全参加者が思い出になる記念品を手に来るように。

全参加者が怪我の無いように。そして主幹する岩手郡医師会員がこの大会の運営を通してより心が通じ合えるように……。そして多少スキーをしている私に計画、立案するようにといわれたのが十月でした。それからというもの、毎日のように上野先生にお逢いし運営について御指導を戴いたものです。会費は会員のみとし、他の参加者は無料とする。昼食は子供や御婦人にとって美味しいもの、リフト券は、ゴンドラにも乗れるように。競技を行ってくれる雫

石インターアルペン（代表村里敏彰さん）の皆さんに対するお礼。大会前夜は佐藤県医師会副会長御夫妻の御出席を戴いての和やかな前夜祭となりました。当日は上野先生の御心が天までも動かしたかのように、このスキーシーズン中で最も穏やかで抜けるような青空の下、素晴らしい大会となりました。“お金のかかった大会”

ととく言われた面もありましたが、上野先生はその予算措置をしっかりと計画され、あとにもさきにもないあのような立派な大会を実施されたのでした。この大会の運営のため、毎日のように先生にお逢い出来、人間としての大きな道を私の前に開いて下くださったように思います。先生ごゆっくりお休み下さい。

マージャンと上野先生

雫石町 長谷川 貫一

街を歩いて感ずることは、雀荘の看板をあまり見かけなくなったことである。恐らく最近の学生仲間や社会人の麻雀熱が、昔ほどではなくなったからであろう。

私がこの地（雫石）に開業した頃は、麻雀全盛の頃で、雫石町内の誰もがマージャンの熱にうなされていた。ご他聞にもれず私もその一人で、同病の人達と卓を囲み夜を徹することも珍しくなかった。

ことあるごとに囲むマージャン卓の数が次第に増え、その頃からメンバーの中に上野先生の顔がみられるようになった。

先生の腕前の程は、残念ながら評価の対照とはならなかったが、時に熱気と殺気のこもった重い空気を吹き飛ばす清涼剤のようなユーモアを持った先生であった。

「先生!!二つつもったらわがねェーベェー」

「先生、今下さ隠さなかったかあー」

「またごまかしたなア」といつも影のように付添っていた山崎さんの声が聞こえる。

少しぐらいのことは聞き流してしまう上野先生を熟知した人の、時として失敬な言葉も、単なる洒落となって消えてしまう不思議な人であった。

（清濁併せ呑む）大笑の風格が、周りの人達の心を柔らげ、熱発した連中の集まりに、こうした下熱緩和剤的效果を期待して、きっと誰かが上野先生を誘ったのであろう。

マージャン熱はその後、時代の流れと共に薄れて行き、今は、共に再び囲むことの無い遠く過ぐる日のマージャンに因んだ上野先生の思い出のひとつまでである。

行事予定

○県関係

昭和64年1月22日（日）於県医師会館

第6回岩手県学校保健・学校医大会

昭和64年1月29日（日）於県医師会館

第32回社会保険指導者講習会伝達講習会

昭和64年2月5日（日）於雫石スキー場

岩手県医師会親睦スキー大会

担当花巻市医師会

○郡関係

昭和64年1月18日（木）、1月24日（火）、

2月1日（水）、2月8日（木）

県民健康講座 会場岩手町五日市

生活改善センター

随	想
---	---

PACKET通信へのお誘い…その(1)…

東八幡平病院 及 川 忠 人

1) 私のHAM歴

私は今日この会でPACKET通信についてお話しすることは最初不適任と思ったのですが、これまでのHAM歴とPACKET通信をはじめたきっかけまでをお話し、PACKET通信がより身近に感じていただければ、その目的を達すると考えお引受けしたわけでありました。したがって技術的なことは余り重視せず、PACKET通信の意義がご理解出来ればと思っておりますので御了解下さい。

さて私のHAM歴を紹介するまえに、私の少年時代の頃を振り返って見たいと思うわけです。そもそもラジオに興味を持ったのは、小学校5年の時鉱石ラジオをくみため、モスクワ放送を聞いた、あの独特のテーマ音楽で“こちらはモスクワ放送局です”とのアナウンスがいまだに脳裏にありありとよみがえって参ります。それからわたしのラジオ遍歴が始まりました。

トリオの並三コイルをもとめ並三ラジオ、並四、五球スーパーと次第にエスカレートしていきました。わたしの兄の同級生にJA7FU佐藤さんの紹介もあり、HAMの存在を知り憧れるように成ったわけです。しかし当時中学生の小生にとって既製のRIGは手が出ず、たまたま父が勤務する高校の物理部の通信販売網を利用し、部品を購入し高一中二の9R4J型の受信機を組立てました。

やがて中学3年の春仙台の八木山にあった仙台電波高校での電話級HAMの受験で合格し、その年の12月末「JA7AOM」の局免許を交付されたわけでありました。

昭和35年5月24日チリ地震津波で大きな被害を受けた大船渡市は私の郷里であり、同級生もその犠牲者になりました。そのときもし自分がすでに開局していたら真っ先に非常通信をせざる

を得ない立場に立たされたのではなかったかと思ひ、HAMの社会的重要性を痛感したわけでした。その後高校受験のため実際の開局は高校に入学してからになりました。

開局の準備のためCQジュニアと言うCQ誌の付録を参考にして807シングルの送信機を自作したのもこの時でした。トリオのVFO-1を購入し試験電波をだしながらポータブルラジオをもち、感度のTESTをしたのも懐かしい思い出であります。さて当時は7MHZのみのONAIRであり7.050の水晶で九州の延岡との交信がいまでもはっきりと記憶に残っております。

また出雲の局との交信が途中で途絶えたりしたこともあり、当時の技術ではしかたがなかったようにも思われます。ともかくも昭和38年3月20日が初のQSOであり、JA7BEBさんと交信した記録がいまでも残っております。

その後、小生は岩手医大医進課程にすすみ、岩手医大の中にHAMクラブを創ることとなりJA7MADのCALL SIGNをもらい、当時小生自作のリグをつかって教養部より交信したことをおぼえています。そのころHAM仲間と一緒にDF先生の自宅をお尋ねし、昭和10年台のリグを見学させて頂きました。その時がDF先生との出会いの始めであり、ある時DF先生のQSLカードがほしくて交信したところ、小生のリグが不安定であり、「周波数をうごかすな！」と、どなられ、その後「先ほどは失礼しました。どうにも聞き取れなかったから」と言われほっとしたことがありました。お空でしかられたのはDF先生が最初で、最後のOMであらうと思います。しかし、御高齢になってもCPUをいじる先生の若さには全く脱帽であ

り、またDF先生を模範にせねばと思う昨今であります。

小生は学生時代はスポーツをやっていたHAMはあまり熱心ではありませんでした。卒業の年にすこしHAMを楽しみ、卒業試験前に仙台二アマの試験を受けに行き見事失敗致した訳であります。CWの勉強が間に合わなかったのが現実でした。

医大を卒業し、医局員生活そして大学院生になり、その後HAMを楽しむゆとりはありませんでしたが、自作のリグは、何度か捨てられそうになりましたが私の“青春の記念品である”との言葉で現在もワガジャックの片隅に残してありひそかな誇りをもっています。ジャックはそのままです。さて30才台後半になり、社会的立場が次第におちつき、比較的住所の移動がなくなるにつれ、すっかり忘れていたHAM用語“FB”……との言葉がその呼び覚ましのきっかけを創ってくれたわけであります。テレビ番組作成の反省会でのJA7VFKさんのFB……な発言により互いにHAM同志であることが解り、やがてそれが起点となり再開局が達成された訳です。

さて、10数年ぶりで新しいリグをもとめそれを使ってみると、模型飛行機と本物のジェット飛行機ぐらゐの違いがあり、特にDIGITALの周波数表示についてはその正確さには驚くばかりでした。もう一つの驚きはアンテナであります。実は屋根の上にルーフトワーを置き八木アンテナを上げる予定でした。しかし屋根の損傷等まさかのことを考え自立型のタワーを建てる事になりました。このアンテナがまた昔のダブルレット、ダイポールにくらべ大変大がかりであり、さらに指向性がモーターで回転も可能であり、びっくり驚くことばかりでありました。まったく小生は浦島太郎と同じでした。HFを中心にHAMをたのしんでまいりましたが7M

HZ、21MHZ、が主体であり少し忙しい交信に疑問を持つようになりました。そのときにDF先生より3.5MHZを是非とすすめられ、3.5、3.8MHZのローターリーダイポールを八木のうえにあげたわけです。この3.5MHZでは全国のドクターネットが毎週水曜日早朝にひらかれ今度は医者仲間のネットに参加することになりました。

この全国Dr. Netの仲間では北海道のJR8XPVと言う方がいて、そのころすでにパソコン通信を電話回線を使って活動していてDr. NetでCPUの話や衛星通信のことを色々教えて頂き、まずVHF、UHFを用いたOSCAR-10による宇宙通信に興味を持ち、衛星通信を約50局交信することができまして、次第にPACKETにも興味をもつようになりまして、JAS-1のPACKET通信に特に興味を覚えたわけです。

さてまず電話回線を用いたパソコン通信をまず行おうと思ひ用途の広いしかもあまりSPACEをとらないPC-9801UV2を求め、さらに秋葉原で電話用のモデムをもとめ、試行錯誤の連続となりました。電気屋にきいても解らず、まずは習うより慣れろの論法ですすめました。しかしN社の説明書がまた小生にとって難解であり、TERMINAL MODEという事が解るまで数カ月を要することとなり、PC-VANに入会しJR8XPV局と電話によるパソコン通信が可能となったときの感激は忘れられません。しかし発信文はすべて英語であり、どの様にして漢字をDISPLAYするのか解らず、そのとき知ったソフトがCTERMでありました。しかしこのCETRMも難物でありまして何回説明書を読んでも解らず、SIMPLEなTERMINAL MODEを使用してMAIL交換等を行い、これがまたかなり詳しい情報がえられびっくりした訳です。そのころからP

PACKET通信が盛んになり、とくにPK-80というAEA社(ワード)のモデムが数千台普及した様でした。1986年11月の下旬、小生も秋葉原でAEA社のPK-232をもとめPACKET通信実現への準備にはいったわけです。こんどはどの様にモデムを使うのかさらに、その機能とうごかしかが解らず毎日説明書とにらめっこの状態となりました。またCONNECTのしかたもわかりにくく色々時間のかかることも多く、ハンダづけも久しぶりでおこない自作時代を思い出したわけでありす。

その年の暮れの大晦日に試験電波でPACKET通信が可能となり念願の通信が盛岡の小生と水沢のJF7NHC局のあいだで行われ、よろこんだわけです。しかしこれも漢字のでない通信でありました。漢字で文字を送るにはソフトが必要であることもわかりましたが、それをど

うしたらよいかかわからない、そんな状況でした。

そのころCPU購入と同時に“一太郎”というソフトがもとにあり、講義録を作る必要性にせまられて、ワープロを使うようになりました。それと同時にATOK5を組み入れた通信ソフトが手にはいるようになり、次第にKEYを打つ早さが増していき、PACKET通信でチャットをするようになり、かなりのスピードでワープロを自分のものにすることが出来たわけでありす。まさに趣味が実際のちからを与えてくれた趣味と実益を兼ねる典型であると感じるものであります。(次号へつづく)

(この内容は昭和63年7月17日北上市で開催された日本アマチュア無線連盟岩手支部総会での講演の一部です)

随 想

ジェイソン君とわが女房

雫石町 上 原 充 郎

7月末日より23才のアメリカの青年が我家に同居している。彼の名前はジェイソン君で、この夏にアメリカのアーラム大学を卒業し、国際理解に貢献したいという希望を胸に、雫石町内の中学生、小学生、そして町民の英語教育の手助けのため、雫石町教育委員会の一員として着任し、我家で二年間お世話することになりました。

昨年の夏に、ライオンズクラブによる交換留学生として来町したアメリカの女子高校生を三週間お世話しましたが、この時は全てがはじめての経験で戸惑うことばかりでした。

今回は二回目であり、しかもジェイソンは三年前に約6ヶ月間盛岡での生活を体験しており、又日本に来るために、日本語や日本の文化について数ヶ月間びしり教育を受けているとのこと一安心でした。そして偶然にも盛岡では小生の兄の家に寝泊りしていたので面識もありま

した。

雫石町の教育委員会のスタッフはこのような外国人招聘は初めての試みであり、是が非でも成功させたいという意気込みがピリピリと伝わって来るようでした。

同居して1ヶ月が過ぎさろうとしていますが、彼は毎日教育委員会に行き、町内の学校の挨拶回り、近隣の施設の見学が毎日の日課のようです。

ジェイソンは日本語がとても上手です。ゆっくり、静かに話すと、たいがいの日常会話は理解出来るし、自分でも、一言一言かみしめるように日本語を話します。そして日本について、特に文学、歴史等をよく知っていて、大学の卒業論文は日本の「武士の心」について研究したようで、『武士の心は時代と共に日本人の心の中で変化をしている』と説明したことがありました。漱石の作品は特に好きようです。

趣味もいろいろ多才で、絵を書いたり、ワンカット漫画を書いたり、短編小説を書き、音楽は広い範囲にわたって興味をもっているようです。ピアノを女房から教えてもらうのだとはり切っています。2年間で“エリーゼのために”が聞えて来るのを楽しみにしております。

ジェイソンの1日はモーニングシャワーから始まります。夜の風呂はほとんど入りません。モーニングシャワーで目覚めるのだそうです。朝食は約40～50分をかけ、ゆっくりゆっくり、女房を話し相手に食べるようです。この時が我家でのジェイソンの日本語のレッスンの時間です。女房は日本語で話し、絵本（我家の小三の息子の本）を読んでやったり、お弁当作りや、子供や小生の朝食を作りながら（我家の朝食は各人別々のメニューなので）彼の話し相手をしています。この1ヶ月でとても日本語がうまくなりました。彼は女房をおかあさん、おかあさんと呼び、家に居る時はおかあさんにベッタリで、あれやこれやと話しています。

“めごいやつ”です。女房も自分の子供以上(?)によく世話をしています。

出勤時に雨が降っていれば車で送り、帰宅時に降り出せば迎えに行くようです。洗濯物はもちろん汗を流しながらアイロンかけをして—小生の物はアイロンかけてくれと言ってからしぼしぼかけるのだが—彼のお部屋の掃除も毎日しています。我家も毎日掃除をしてもらうといつもきれいなはずなのに……。

朝、出かける時は玄関でおかあさんとソックスの色—赤、緑、青の元気の出る色—の話をしたり、あれやこれや長々と話をしてからHave a good day、See you laterといつて、役場から貸与された、彼曰くWonderful new bicycle（雫石町にはまだ一台しかない立派なやつ）に乗ってゆうゆうを出かけます。この間小生は台所で一人ぼそぼそと朝食をとるのです

が、かならず窓から顔を出して、Be careful、Take it easy see you again Have a good day等々

知っているかぎりの英語で声をかけて送り出してやります。ジェイソンが来てからは女房とゆっくり朝食を食べるのは仲々出来なくなりました。夕食時はたいへん賑やかになります。子供達はそれぞれ、ジェイソンと一日の出来事を日本語と少しの英語をまぜてワイワイ、キャッキャッと話したり笑ったりしてます。子供達の賑やかさをビールを飲みながら見たり聴いたり、一言二言、口をはさんだりしているうちに子供達は食事を終え食卓を離れると、これから小生の英会話のレッスンの時間になります。ビールを飲みながらのレッスンです。「いただきます”って何と言うの」ウ…ン…Let's eat、じゃあ“ごちそうさま”は？ウ…ン…ムズカシイ……どうやらごちそうさまにあたる言葉はないようだ。“ごはんだよ”はどう言うの？ン…アサゴハンは…ン…Breakfast is on オヒルゴハンは…ン…Lunch is on ヽルは…ン……Supper is on……デス。“行ってまいります”は(?)ウ…ン…see you later、Have a good day、so long…デス。行ってらっしゃい？ン…Be careful、see you later、take it easy トイイマス。“ただいま”はどう言うのI'm home、Do you have a good day?……ン……ムズカシイ……おかえりなさいは(?)…ウ…ン……Hey man、Wel come home Do you have a good day? デス。懐かしいは？ウ…ン sweet memory……デスカ？ムズカシイデス…」等々ビールを飲み飲み、夜の更けるまでイングリッシュカンパセッションと国際理解は続くのです。女房は夕食の後片づけをしながら時々相槌を打ったり、感心したり、眠むそうな目をしたりしています。小

生もそのうちビールがきいてきて、眠くなってしまふのです。

やる気満々のジェysonです。九月からの町民

を対象にした英会話教室は50人の定員に150人の希望者なそうです。「ボク、ガンバルヨ」と言っています。かわいいやつです。

雨の中健闘す

県医師会ゴルフ大会(於宮古カントリークラブ)

第22回岩手県医師会親睦ゴルフ大会は、昭和63年9月15日(敬老の日)に担当の釜石、宮古両医師会のもとに宮古カントリークラブ浄土ヶ浜シーサイドコースにおいて開催された。

当日は台風の影響で朝から雨模様ではあったが、参加者は傘をさして、上下レインウェアを着込んでのスタートとなった。

当岩手郡医師会からの参加は6名(坂井博毅、佐藤郁郎、八角正司、嶋信、熊谷利信の各先生と坂井洋子さん)であり、フェアウェイもところどころ水たまりがあったり、水を含んだむずかしいグリーンに悩まされながらそれぞれ健闘した。

団体戦は上位5名の合計ネットスコア(ダブルペリア方式による)で争われ、地元開催医師会の釜石医師会が優勝し、岩手郡は第8位であった。

個人戦はレディースの部、シニアの部(大正10年生まれ以上)は参加者が少なく、壮年の部(昭和15年生まれ～大正11年生まれまで)が最も多く74名の参加があり、他に青年の部(昭和16年生まれ以下)27名の参加があった。

レディースの部で坂井洋子さんが準優勝、壮年の部で佐藤郁郎先生が第1位、坂井博毅先生が第2位とそれぞれ上位入賞を果たされた。

今回は気仙、東磐井郡医師会の担当で行われる予定であり、各選手一同は一日中雨の中本当にお疲れ様でした。

尚、この大会でクリニックマガジン杯第3回全日本医師ゴルフ大会の岩手県代表選手に、A会員代表として当医師会の坂井博毅先生が選出されましたが、10月14日に至って諸般の事情で大会が延期となった。

編集後記

・このたび急逝された元岩手郡医師会会長故上野精三先生の追悼のことば、思い出をそれぞれの先生方より御寄稿いただき誠にありがとうございました。長年月にわたる会長職でもあり、各年代の先生方に思い出も多少あることと思いますが、逐次御寄せいただき次第掲載したいと思いますのでよろしく願います。先生の御冥福を心より御祈り申し上げます。

・雫石町の高橋孝先生には上野先生の葬儀の写真を提供していただきありがとうございました。またいつも上野先生のそばにいての心づかいの様子をつづっていただき涙を誘うものがあります。

・また編集作業中、9月25日には岩手医大名誉

教授、東八幡平病院理事長伊崎正勝先生が、また11月29日には岩手医大名誉教授、元郡医師会顧問、元滝沢中央病院院長光井庄太郎先生が、12月6日には上野先生の前に郡医師会会長を務められた森茂尚先生(西根町大更)が逝去された。相つぐ大先輩に先立たれ、われわれにまだまだいろいろ御指導をいただきましたのに残念でなりません。御冥福を心より御祈り申し上げます。

・雫石町上原先生宅に寄宿しているジェyson君の日本での思い出もこれからたくさん作られることでしょう。彼の眼から見た岩手県、雫石町についてこれからもつづっていただければ楽しいと思います。

(M. S)